

## 2. 自己表現活動を意欲的に取り組ませる英語指導

鈴木 克彦

本稿は、筆者が昭和61年3月まで勤務していた名古屋市立南光中学校での英語指導の実践について主に扱ったものである。今春、筆者は名古屋大学教育学部附属中学校に転任したが、ご好意により本校紀要に掲載させて頂く運びとなった。前任校での実践のまとめ、反省、今後の課題及びそれらを生かした附属中学校での実践の指針を探り出していきたい。

なお、本稿の一部は、昭和60年度名古屋市立中学校英語教育研究会・夏季研究発表会での発表を含むものである。

### 1. はじめに

「英語で自分のことを自由に言えたらいいな」「外人と思うように話せたらな」という素朴で夢のある期待感に満ちた中学1年生の英語の授業では、他教科にはちょっと見られないような熱気が教室にみなぎっている。

しかし、それがいつしか3年生ともなると、よく言えば落ちついた、悪く言えば冷めた雰囲気の中で、活気のない授業が淡淡と進むということが往往にしてある。あのころの熱い英語への思いはどうなってしまったのだろう。中学校を終える段階で、一体どれだけの者が、中1のころ持った夢に少しでも近付けたであろう。

簡単なことさえ表現できないもどかしさやわずかな誤りさえ厳重に指摘されることからの自信喪失という経験を度重ねるうちに、大部分の生徒は、入門期のころに持った淡い夢を忘れ、英語は難しいものとしてあきらめるか、英語は知識として増やすことが先決と割切ってしまう。

また、教える側の方でも、時間的ゆとりがないとか指導が煩雑で厄介であるという理由から、自己表現としての英語、コミュニケーションのための英語をめざした授業を行う機会が少なく、生徒の自己表現への意欲や能力を育てることができないという問題点がある。

そこで、生徒のニーズや主体性に促した、より本物の情報交換に近い場面を授業の中に設定することで、英語による自己表現を通してコミュニケーションの目的を達しようという生徒の試みを育みたいと考えた。

また、そこで出てきた表現で間違いや不十分な個所は、生徒自らが必要と感じるところなので、それを取りあげて提示すれば、真剣に理解し、自分の英語の体

系の一部に取り込もうと努力させることができると考えた。

### 2. 身近なことを生き生きと表現させる指導 —— 3年生 英語絵日記の指導を通して ——

#### (1) 研究のねらい

昭和60年度の名古屋市立南光中学校3年生の英語の学力レベルを、全市的視点で比較すると、「書く」領域における基礎学力が不足していると思われる生徒が約80%を占めている。(名古屋市立中学校英語教育研究会英語学力テストの名古屋市全体との比較結果より)当然、応用的または創作的課題に弱く、勢い授業では基本的語いを身につけさせたり、基本的言語形式の操作に習熟させたりなどの指導の比重が高い。Creative writingを取り上げたいと考えることもあるが、現時点では無理だと考えていた。

しかし、「毎日の記録」(生徒が毎日、その日印象に残った事柄を3~4行の文章で記録ノートに書き、翌日学級担任が、それに対して感想を朱書きするもの。中1から、南光中学校では全学年で取り組んでいる。)に書かれた内容を読んでもみると、生徒の側には、人に伝えたいと思っている事がいくらかでもある。また、それらは、多少の工夫で、中学段階の英語でも置き換えが可能である。

そこで、「英語」で表現し、相手に伝えたいという意欲を引き出すために、英語の誤りや文章としての稚拙さには、ある程度目をつぶり、できるだけ多くの英語を使わせ、補助手段として絵を描かせる表現活動を行わせようと考えた。

#### (2) 研究の内容

##### ア. 英語絵日記の指導について

New Horizon : Lesson 5 From Mike's Diaryで、英文日記の書き方を指導し、夏休み中の出来事を英文と絵で書き表すように指導した。

絵を描かせたのは、英語でどうしても表すことができないことについて、日本語を使わずに英文を補足するためである。また、絵を描かせることで、下位生徒の英文日記への興味を引くこともできると考えた。さらに、絵が下手でも、まじめに状況を説明しているものであれば、表現しようという意欲は高いと見なすこ

とにした。

イ. 英語絵日記の指導に至るまでの指導について

英語に親しみを持たせ、まとまりのある文章を書くことに取り組みさせる

授業の冒頭で、英語の試運転と称し、やさしい英語を使いT-S間で問答した。その後、問答を2文程度の説明的文に書き換えさせた。やさしい英語を使ったため、話したり書いたりすることへの抵抗を少なくすることができた。また、文と文のつながりを意識させることもできた。

〔例〕T-S間の対話

T (teacher) : Do you like English ?

S (student) : No, I don't.

T : Why ?

S : It is difficult.

T : But you speak English very well. では、今の先生との対話を英語でまとめてみよう。まず、A男は英語が好きかどうか書きなさい。その理由はどうだったかな。ああは言ってるけど、実際は英語はどうだ。

生徒がまとめた文

A doesn't like English. Because it is difficult. But he speaks English very well.

ほぼ、毎授業この種の問答(質問文)を用意し、教室に臨んだ。中には、アルファベットすら満足に書けない生徒も居り、やさしいだろうと思った英語が、理解されず、1年生の復習となったり、narrativeに書き換えることがうまく行かず、dialogueをそのまま書かせたりすることもあった。しかし、2か月程するとdialogueでの1人称、2人称代名詞が3人称で書けるようになってきた。

教師の英語を聞かせ、書き取らせる。

1~2週に1回程度、教科書のTarget Sentenceを含む2~3文からなる教師の英語を聞かせ、ノートに書き取らせた。自己表現という観点からはずれているようだが、身近な話題を既習の英語で充分表現できることに気付かせることができた。

〔例〕Lesson 2 経験を表す現在完了+~times

T : Do you like comics ?

S : Yes.

T : I like comics, too. I have read Kinniku

Man three times. It is fun. では、今のをノートに書いてもらいます。I will say again.

修学旅行の思い出を英文で書かせる

修学旅行について、英語で問答し、思い出に残った場所やその理由を書かせた。

〔例〕

T : Where did you go from June 20 to June 22 ?

P : We went to Tokyo, Hakone, and Tokyo Disneyland.

T : Did you enjoy your trip ?

P : Yes, I did.

T : What place did you like best ?

P : I liked Tokyo Disneyland best.

T : Why ?

P : うーん。昼食が自由に食べれたから。

T : そうだな。外は定食コースだったからね。英語でならWe were able to eat anything we liked in Tokyo Disneyland. かな。

※プリントが予め渡してある。下線部に書き込む。

We went to Tokyo, Hakone, and Tokyo Disneyland.

I enjoyed my trip

I liked Tokyo Disneyland best.

Because we were able to eat anything we liked in Tokyo Disneyland.

英文日記に取り組みさせる。

Lesson 5では、英文日記の書き方を指導した。1日の出来事をできるだけ多くの英語で書かせ、そのうち最も印象に残っていることについて、3文以上で理由やさらに詳しい説明を書かせた。それによって、日記は朝起きて夜寝るまでの事を羅列して書くのではなく話題を絞ってまとまりのある文章を書くことであることに気付かせた。

〔例〕

時間帯	番号	1日のできごと
朝	1	I got up at 7:30.
	2	I ate breakfast at 8:00
	3	I watched news on television.
昼	④	I visited the お墓 and went to Uny in Shibata.
夕	6	I slept for a short time.

7	I ate dinner at 6:00.
8	I watched ' Let's Go Young ' on TV.

「1日のできごと」の欄にできるだけ多くその日に経験したことを書かせた。それらの中から、特に印象に残ったことについて書かれた文を選ばせ、理由や書き加えたいことを書かせた。その後、英文の一番上に日付、曜日、天候などを書かせ、日記となるようにした。

〔例〕

特に印象に残ったこととその理由
Sunday, June 31. clear I visited the graveyard with my parents. It was my grandfather's grave. I liked him very much. After that we went to Uny. My parents bought me a dress. It was very good. I liked it very much.

〔例〕の生徒は、初め次のように書いていたが、「一度に2つの事は書きにくいので、分けて書いてみたら。」「おじいさんのことどう思った。」「誰と行ったの。」「服は誰に買ってもらったの。」などの教師の質問に答えながら、上記のような英文を書いた。

I visited お墓 and went to Uny in Shibata. It was my grandfather's お墓. I was bought a dress in Uny. I like it.

夏休み間際で、1時間だけの指導であったので、すべての生徒をみてやるができなかったが、盛んに教師に、分からない表現などを質問し、活発な生徒の学習のようすを見ることができた。

ウ. 再び英語絵日記の指導について

夏休み中の任意の3日間について英文日記を書かせる。英語で表現しきれないときは、絵で表現させる。
---

イの「英文日記に取り組ませる」の指導中のことである。机間巡視をしながら、A男のプリントを覗くと「特に印象に残ったこととその理由」の欄に、しきりに絵を描いていた。落書きかと思いきや、A男に注意を与えると、「B男たちとプールへ行ったことを書こうと思ったけど、英語ではこれだけしか書けんで。」と答えた。I and B and C swim in pool. I like swim.

なるほど、A男の英語の学力からすると、これだけで精一杯というのもうなづける。少なくとも、この日のA男は「分かん。」と言ってすぐに投げ出してし

まう普段のA男と違う。プールに行って、友人らと過ごした楽しい一時のことを、日記に託して書いてみたいという意欲や興味を持っていたことは確かである。日本語で書いては英語の勉強にならない。かといって英語で書けるほど言語材料に習熟していないという心の動きが、空白部分に絵を描かせたのかもしれない。

A男の一件にヒントを得て、絵を添えて英文日記を書かせてみようと考えた。その指導上の有効性として次の2点が考えられる。

a. 英語で表し切れない経験、考え、感情などを、何も書かないであきらめるのではなく、絵を添えることでさらに多くのことを相手に伝えるために表現しようという意欲を育てることができる。

b. 下位生徒でも、絵を描くことで、英文日記に興味を持たせることができる。

また、指導上の留意点として、次の2点を考慮した。

a. 「正しい英語でまとまりのある文」にすることをあまり強調せず、「できるだけ多くの英語を使って誤りを恐れずに書く」ことに力点を置く。(これまでの指導経過から後退しているようだが、夏休み中のことへ教師の直接指導ができないことと、担当クラス以外の生徒にも課題として与えることを考慮。)

b. 絵を利用して、読む者にできるだけ多くのことを分かりやすく伝えようという気持ちで書かせる。

以上のことを、夏休み直前の授業で話し、「英語絵日記用プリント」を一人3枚ずつ配布し、夏休み中の出来事を英文で表わさせた。提出日は、夏休み中の登校日と2学期の始業式とし、筆者以外の他クラス担当の英語教師にも同様の指導を頼んだ。

エ. 提出された英語絵日記の分析

表現しようという意欲をもって書かれたか評価する観点として、3つの項目を考え、成績別に検討してみると下表のようになった。

評価項目	上位	中位	下位
多くの英語を使ったか(語数)	42	35	23
絵は描かれたか(%)	100	100	100
提出率は良好か(%)	96	84	51

通常、「書くこと」の言語活動の評価の際考えられる観点は、上記以外に a. 指導した文型が使われているか。 b. 語句・文型・文法事項にまちがいはないか。 c. 内容に気持ちが表れているか。 d. 文章はよくまとまっているかなどが考えられるが、これらは表中の評価項目より比重を軽く扱った。特に、b, dについて調べると下表の結果を得た。

誤りは少ないか(%)注	0.2	0	0
文章としてのまとまり(%)	72	44	33

注 1文ごとに誤りの数を調べ、1文につき1個以内の誤りを少ないとし、2個以上を誤りが多いとして計算した。

予想はしていたが、誤りの少ない英文を書ける生徒が極めて少ない。ところが、これだけ間違いだらけの英文にも関らず、英文の量は予想以上のものだった。絵に関しては、提出者の100%が描いてきた。また、成績上・中位者のうち約23%の生徒が和英辞書を使ったと思われる。

以上のことから、絵を伴った英文日記は、生徒が自己表現をしようと意欲を持たせるのに効果があったと言える。しかし、問題点として、語句・文型・文法事項等に間違いが多すぎることも確かだ。

約800枚の英語絵日記を回収できたが、全部を添削するのは無理なため、各クラス3～4例をTPに取りOHPで投影して、全員の前で、語句の使用法や文章のまとめ方についてアドバイスを与えた。

次に生徒作品例で考察を続けたい。

PICTURE DIARY OF THE SUMMER VACATION

(7)月(23)日(火)



Tuesday, July 23. Clear  
 I went to school to play club activities in the afternoon and am a member of the brass band club. I play the trombone. We practiced "Toccata for Band" and "Midsummer music" today. They are time to asahi contest.

I taught the tune to my juniors. We made good progress in it. When asahi contest finished, I will be relieved. But I won't be able to relief. Because there's the Churichi' contest I am working hard in the club now. I am very glad to belong to the brass band club. END 4~40

この生徒は、授業中自ら発言することは全くなく、評定は2で、英語には劣等感さえ持っていると思受けられる。

しかし、吹奏楽部の活動には熱意を持って参加しており、そのようすを書き表すことができた。間違いは確かに多いが、南光中で評定2というとその半数がアルファベットを満足に書けないにも関わらず、和英辞典を引きながらこれだけの英文が書けた。

エ. 文化祭での作品展について

11月の文化祭に、各クラス10枚、計90枚の英語絵日記の作品展をした。文章としてよいもの、絵に訴えるものがあるもの、ユニークなもの、字がていねいなものなどの選考基準で作品を選出したので、一部の生徒だけに片寄ることなく展示ができた。

1・2年生が英語絵日記の展示場所へ来ると、先輩や兄弟の作品を捜そうとしたり、内容を熱心に読み取ろうとしたりで、見学の列がなかなか前へ進まないほどだった。

### 3 反省

コトバは、「コミュニケーション」のために存在しているという前提に立ち、語学教師として、生徒に「コトバとしての英語の基礎」を身につけさせたいという目標を持っている。「書くこと」の指導では、最終的にはCreative writingをめざしたいが、基礎学力の身につけていない生徒を目の前にすると、教える者としては二の足を踏んでしまう。

しかし、今回の実践を通じて、(1) Creative writingに至るまで、かなりcontrolされた形であってもCommunicative activitiesを取り入れつつ、初学者として必要な語いや文法体系を身につけさせ、誤りがあればきちんと矯正してやり(本実践では、意欲に注目する余り、この点に欠けていた。)、(2) Creative writingをさせるに至っては、綴や文法には神経質にならず、むしろ表現の内容や工夫に目を向けさせ、誤りに対しては後に軽く触れる程度にすれば、成績下位者であっても意欲的に表現活動に取り組めることが分った。

名大附中では、中学2年を担当している。New Horizon English Course 2では、自己紹介や手紙などを扱っており、自己表現活動を取り入れた授業を展開したいと考えている。その際、前任校ではあまり追求できなかった文章にまとまりをもたせることを指導の重点としていく予定である。